

第2 1 回地域経済産業調査結果の概要（地域別）

北海道経済産業局管内の経済動向

北海道地域の経済は、概ね横ばいで推移している。

1. 全体の動向

設備投資は増加。個人消費、観光は横ばい、生産、雇用はやや弱い動きとなっており、全体として概ね横ばいで推移。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ やや弱い動きとなっている。~

自動車向けが好調な鉄鋼や輸送機械は高水準を維持。一方、公共事業などの減少から金属製品工業に弱い動きがみられ、窯業・土石製品工業は低水準で推移。

(2)設備投資 ~ 全産業では増加している。~

輸送機械、食料品、一般機械などで大型投資のほか、その他業種でも積極的な動き。

(3)雇用情勢 ~ やや弱い動きとなっている。~

月間有効求人倍率は 0.59 倍と4ヶ月連続で改善しているものの、建設、小売、飲食などの求人減から新規求人数は7ヶ月連続で減少。

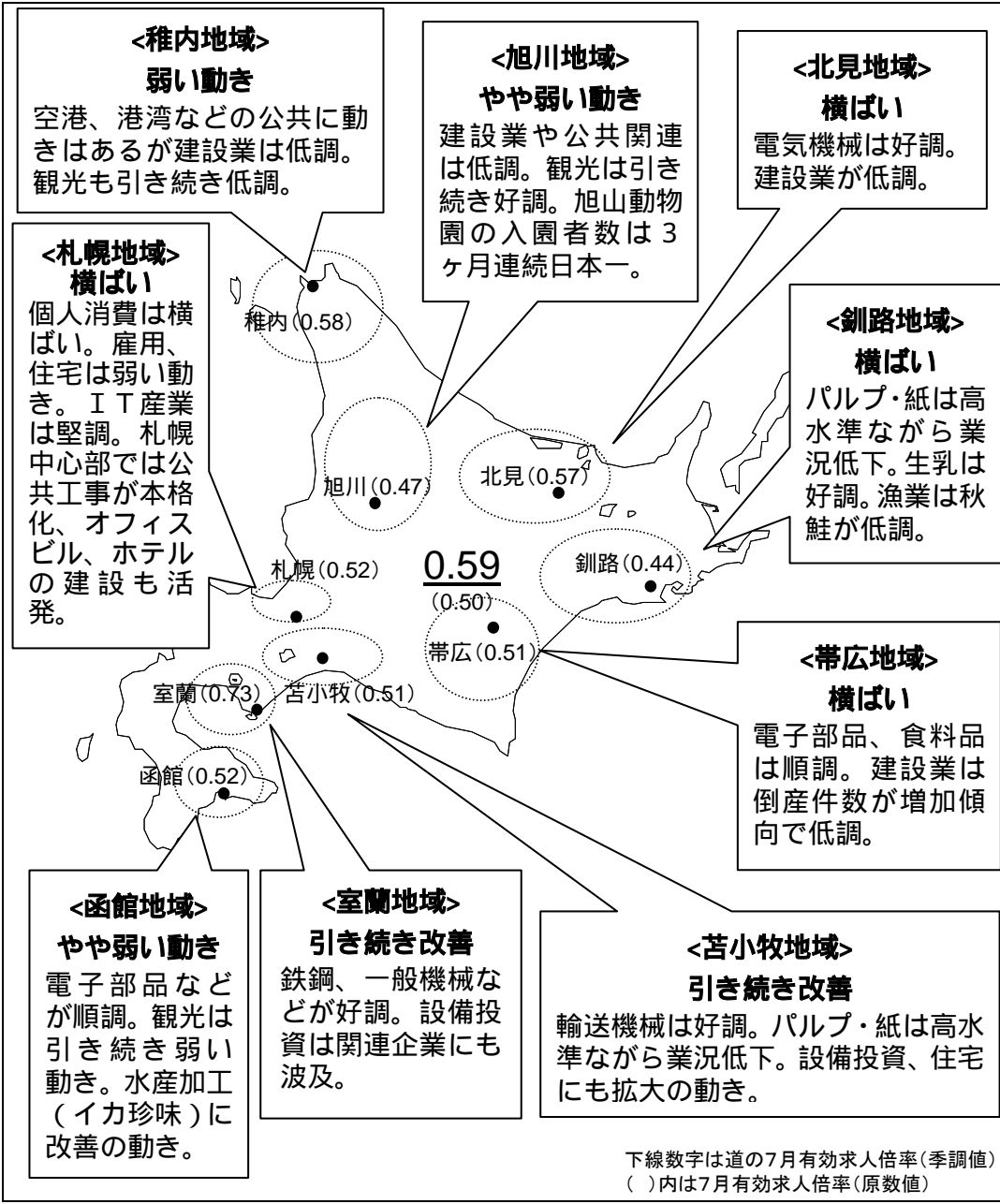
(4)個人消費 ~ 横ばいとなっている。~

スーパーが横ばいのほか、家電は地上デジタル放送エリア拡大で薄型テレビが好調。百貨店、自動車販売に弱い動き。

3. 地域経済のトピックス

原油・原材料価格の上昇は、約半数の企業で収益を圧迫し、一部の業種（窯業・土石、パルプ・紙、鉄鋼、運輸など）では大きく圧迫。中小企業がより厳しい状況。なお、道外とのフェリー運航にも減便やスピードダウンの影響。冬場に向けて暖房費などへの影響を懸念。

北海道洞爺湖サミットの開催決定以降、洞爺湖温泉の観光客入込数が増加傾向。サービス業関連への事業発注の動き。



東北経済産業局管内の経済動向

東北地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

業況は横ばい。生産は上昇傾向。設備投資は引き続き積極的な動き。雇用は地域差あるものの緩やかな改善の動き。個人消費は一部に持ち直しの動きがあるものの弱含み。

全体として引き続き緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 上昇傾向で推移 ~

電子部品・デバイス、情報通信、電気機械を中心に好調に推移。

(2)設備投資 ~ 引き続き積極的な動きがみられる ~

電子部品・デバイス、パルプ・紙、石油製品、情報通信業等で積極的な投資の動き。

(3)雇用情勢 ~ 地域差があるものの緩やかな改善の動き ~

有効求人倍率は0.77倍と2か月連続で低下するも、19年6月まで20か月連続で前年を上回って推移。

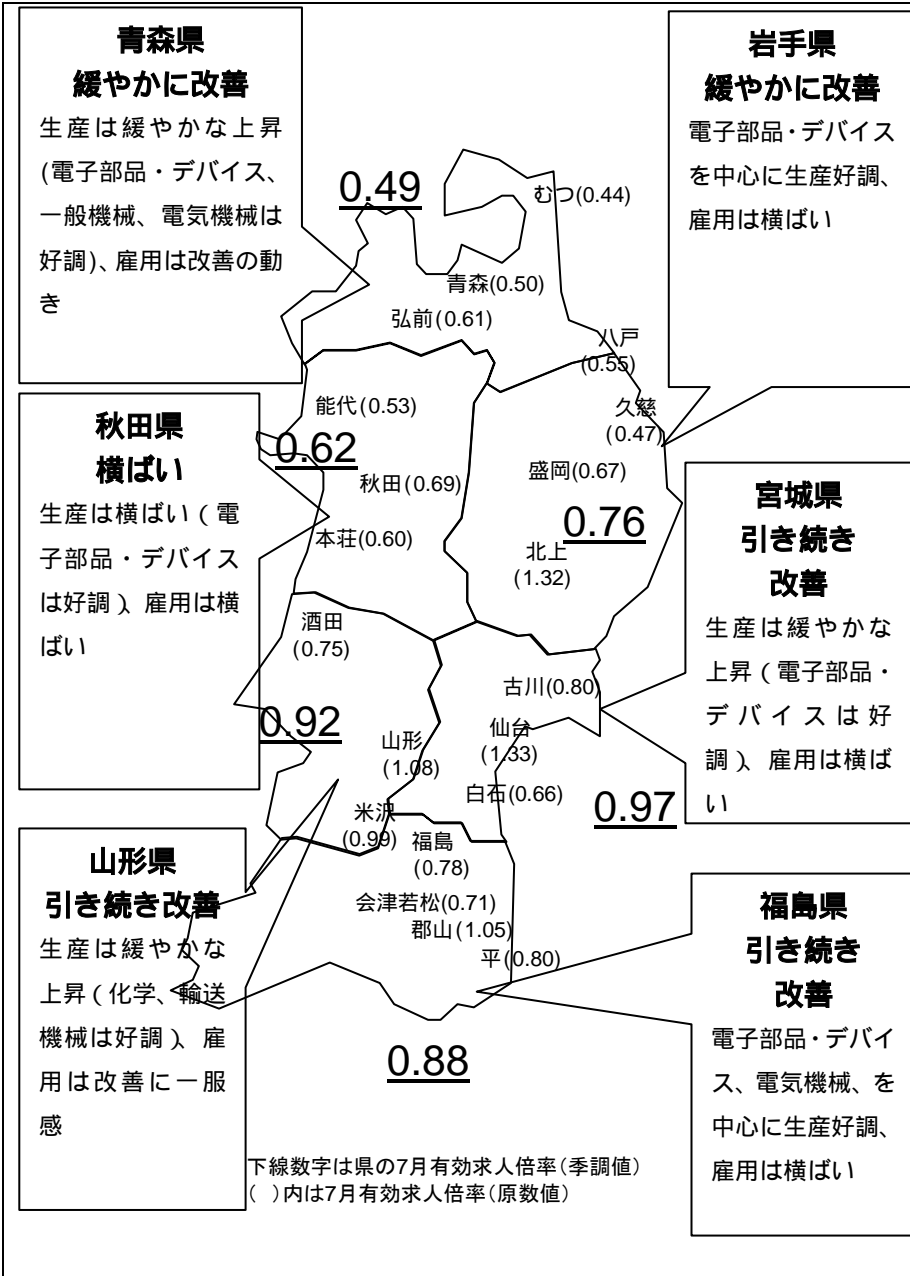
南3県(0.93倍)と北3県(0.61倍)で地域差あり。

(4)個人消費 ~ 一部に持ち直しの動きがあるものの、弱含み ~

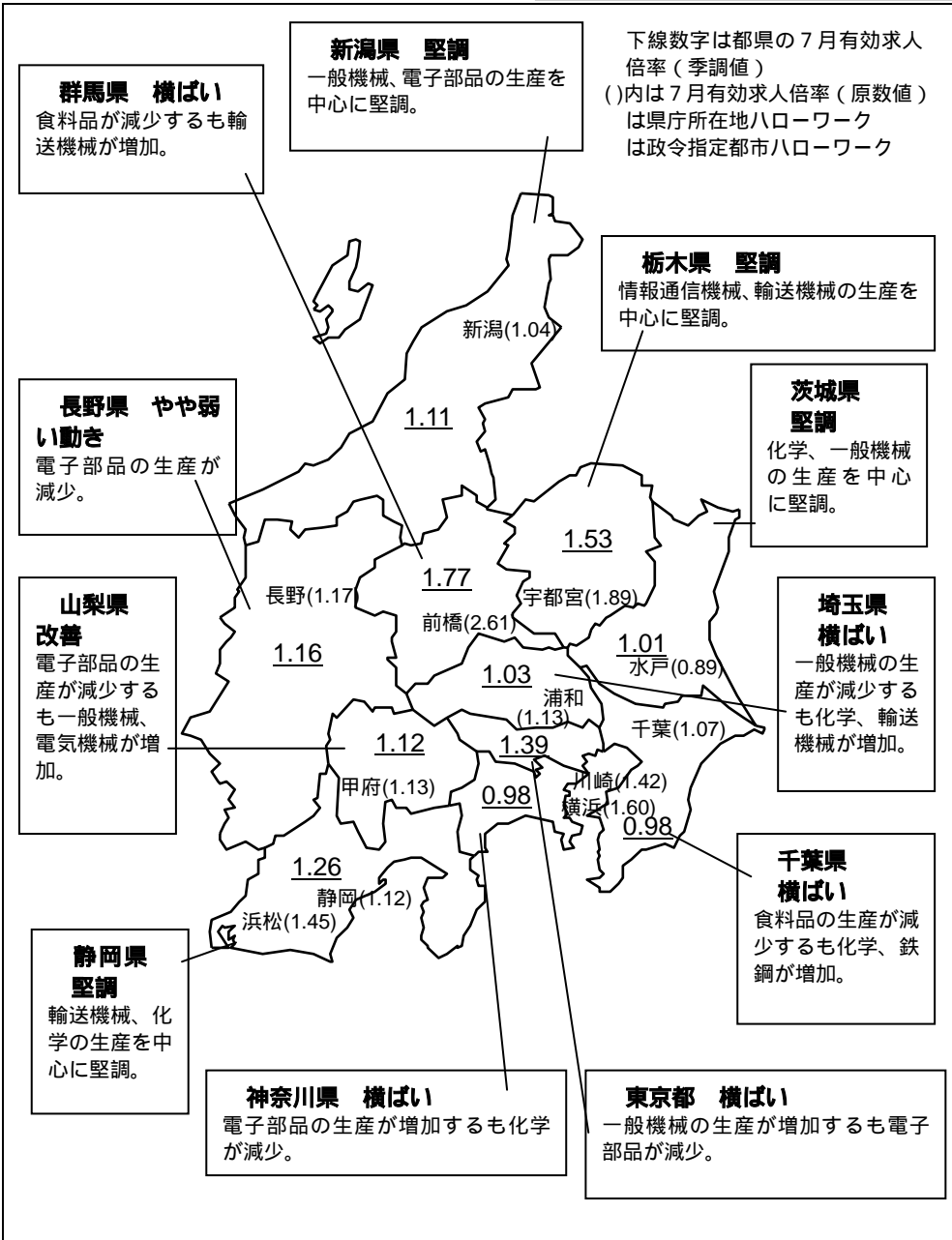
デジタル家電の販売が好調であること等一部に持ち直しの動きがあるものの、大型小売店販売額(全店舗)が5か月連続で減少するなど弱含み。

3. 地域経済のトピックス

原油・原材料価格の上昇により収益圧迫。製品価格への転嫁は不十分。大型企業立地の動きが活発。東京エレクトロン、TDK、キヤノンプレジジョン等が立地を表明。



関東経済産業局管内の経済動向



関東地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

業況は横ばい。生産は緩やかながら上昇傾向。設備投資は増加しているとともに雇用は引き続き改善、個人消費にやや弱い動きがみられるものの、全体としてみれば緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 緩やかながら上昇傾向で推移している。~

一般機械、輸送機械、電子部品が堅調。

(2)設備投資 ~ 増加している。~

製造業では能力増強や新製品開発、環境対策等を目的に活発に投資。小売業においても新規出店や店舗改装等へ積極的に投資。

(3)雇用情勢 ~ 引き続き改善が続いている。~

製造業、非製造業ともに人手不足感から積極的な雇用確保に努力。

(4)個人消費 ~ やや弱い動きがみられる。~

コンビニ、家電量販店が堅調に推移しているものの、大型小売店、乗用車販売が伸び悩んだことから全体としてやや弱い動き。

3. 地域経済のトピックス

原材料、原油ともに価格上昇の影響度が拡大。製品価格への転嫁が進まず、特に中小企業では収益面での悪化を懸念。

新潟中越沖地震の影響により県内広範にわたり宿泊施設や観光施設に打撃。風評被害対策効果や復興工事関係者需要で一部穴埋めしてきたが、秋以降繁忙期の予約落ち込みに危機感大。

つくばエクスプレス沿線地域では、都内やつくばの研究機関へのアクセス利便性から、地価の高騰や大規模な住宅・商業施設開発が進展し、常磐線沿線地域との明暗有。

中部経済産業局(東海地域)管内の経済動向

東海地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は緩やかに増加、設備投資は増加基調を持続、個人消費は持ち直しており、全体としては緩やかに改善。原油・原材料価格の高騰による収益への影響もみられる。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 緩やかな増加傾向となっている ~

主力の自動車・同関連産業は米国向け輸出の弱含みをアジア・欧州等他地域の増加でカバーし緩やかに増加。半導体・液晶素子も内外需好調で増加傾向。地場産業は依然厳しい。

(2)設備投資 ~ 増加している ~

部品・素材を含む自動車関連では高水準の投資が続いており、東海環状自動車道(豊田市~岐阜方面)沿線への新規立地も目立つ。半導体・液晶素子の大型投資も進捗。名古屋駅周辺等の再開発も引き続き進捗し、地価の値上がりも目立つ。

(3)雇用情勢 ~ 労働需給が引き締まっている ~

製造業、サービス業とも人材不足感がより強まっている。

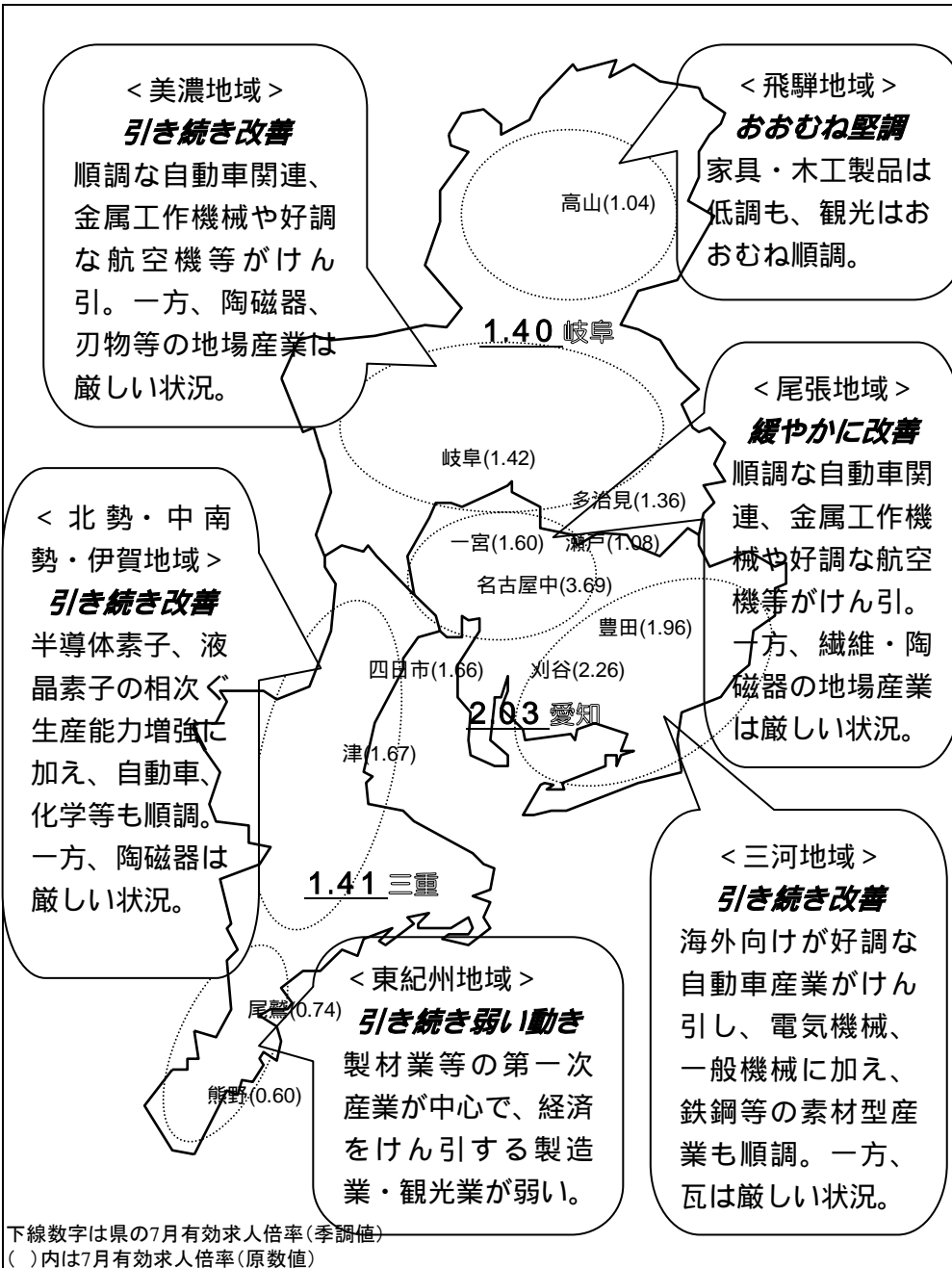
(4)個人消費 ~ 持ち直している ~

天候不順の後、8月は盛夏商品が盛り返し、全体では持ち直し。特に商業集積が進む名古屋駅前地区では消費が好調で活況。

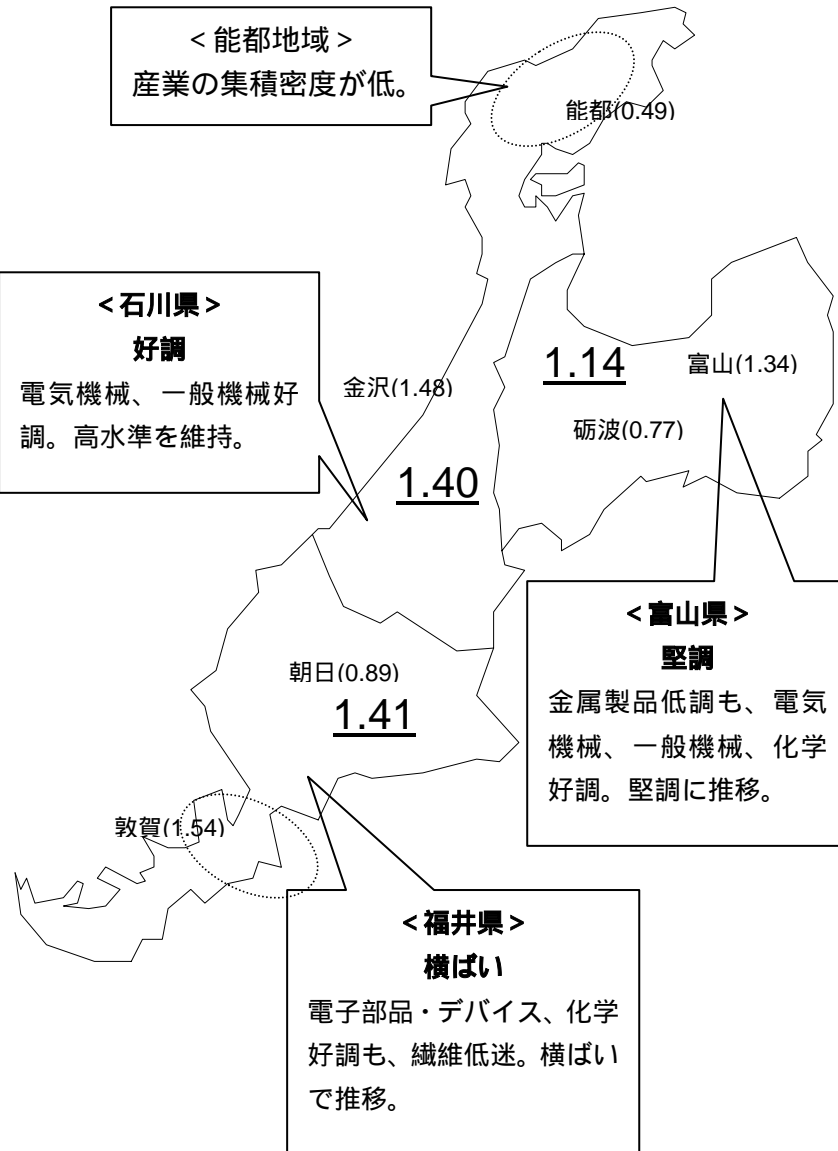
3. 地域経済のトピックス

人材不足の深刻化により、自動車関連など製造業では需要増や新規開発への対応が困難さを増しており、高度人材の社内養成や他地域への進出の動きが出始めている。

原油・原材料価格高騰により、自動車部品関連、繊維・陶磁器等の地場産業、運輸等で十分な価格転嫁できず収益を圧迫。



中部経済産業局(北陸地域)管内の経済動向



下線数字は県別7月有効求人倍率(季調値)
()内は7月有効求人倍率(原数値)

北陸地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は横ばい傾向。設備投資は堅調。雇用は改善が続く。個人消費は弱い動きで概ね横ばい。全体としては緩やかに改善。今後は設備投資が引き続き堅調、雇用も改善など改善基調が続く見込み。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 横ばい傾向となっている~

繊維、金属製品など一部業種に厳しさが残り、一般機械は高水準も横ばい傾向。電子部品・デバイスは在庫調整が進展し上昇傾向。化学はジェネリック医薬品などの増加から好調に推移。横ばい傾向が長期化。

(2)設備投資 ~ 堅調に推移~

一般機械、電子部品・デバイスなど自動車、IT関連向けを中心に堅調。特に繊維でも産業用資材に動き。小売業も、競争力強化のため、新規出店やリニューアルの動き。

(3)雇用情勢 ~ 改善が続いている~

業績の回復を反映し人手不足感が広がる。採用拡大も人材の確保が困難。特に技術系に不足感。中小企業でも技術系を中心に必要な人材レベル、採用人数を確保できない企業も多く見られる。

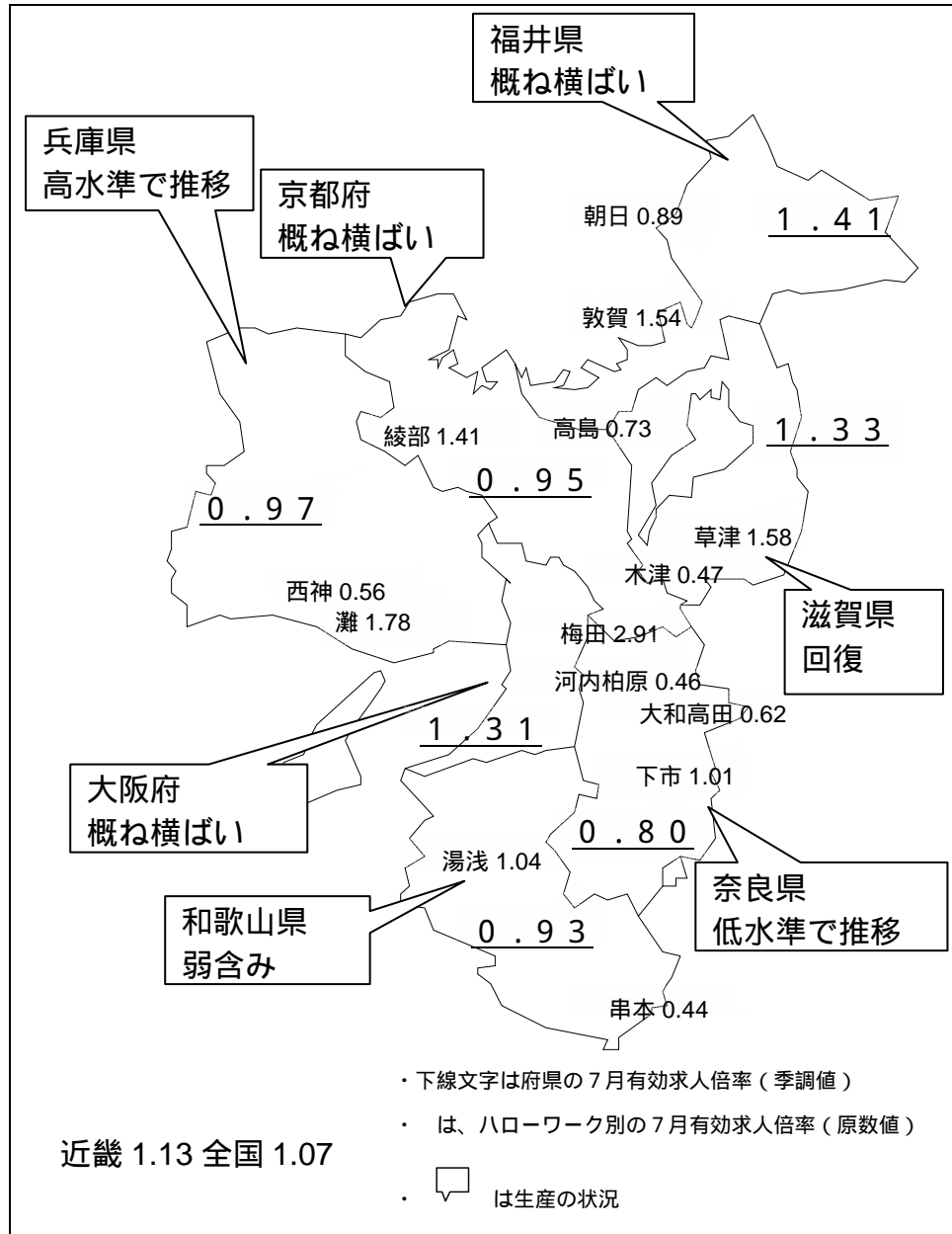
(4)個人消費 ~ 概ね横ばいとなっている~

天候不順により夏物商戦が低調となるなど、全体として弱い動きで横ばい傾向。

3. 地域経済のトピックス

原油・原材料価格の上昇により企業収益に影響。製造業では価格転嫁が上昇幅に満たないところも多く、繊維・化学・金属で収益を圧迫。非製造業では、特に価格転嫁が困難な建設・運輸で収益を圧迫。立山黒部アルペンルートでは、外国人観光客が対前年30%増と好調。外国人観光客の年間10万人突破は確実(全体の約1割)。台湾を中心に、香港、韓国も急増。春の「雪の大谷」、秋の「紅葉と新雪」が好評。

近畿経済産業局管内の経済動向



近畿地域の経済は、改善している。

1. 全体の動向

生産は横ばい、個人消費も概ね横ばいで推移しているものの、輸出が好調に推移し、設備投資も増加、雇用も改善するなど、引き続き改善している。

2. 個別の動向

(1) 生産 ~ 総じて横ばい ~

好調な輸出を背景に建設機械、工作機械、鉄鋼など高水準であるものの、携帯電話、白物家電などに弱い動きがみられ、総じて横ばい。

(2) 設備投資 ~ 積極的な企業が多く増加 ~

製造業では、鉄鋼、薄型テレビを中心に生産性向上のための更新投資や能力増強投資など高い伸びが継続。非製造業でも、発電所の増設・改修や商業施設、オフィスの建設など、引き続き積極的。

(3) 雇用情勢 ~ 改善 ~

団塊世代退職補充の必要性などから、全般に人材の量的不足感がある。製造業では、欠員の補充や即戦力としての中途採用が拡大。小売業でもパートの確保が困難。

(4) 個人消費 ~ 概ね横ばい ~

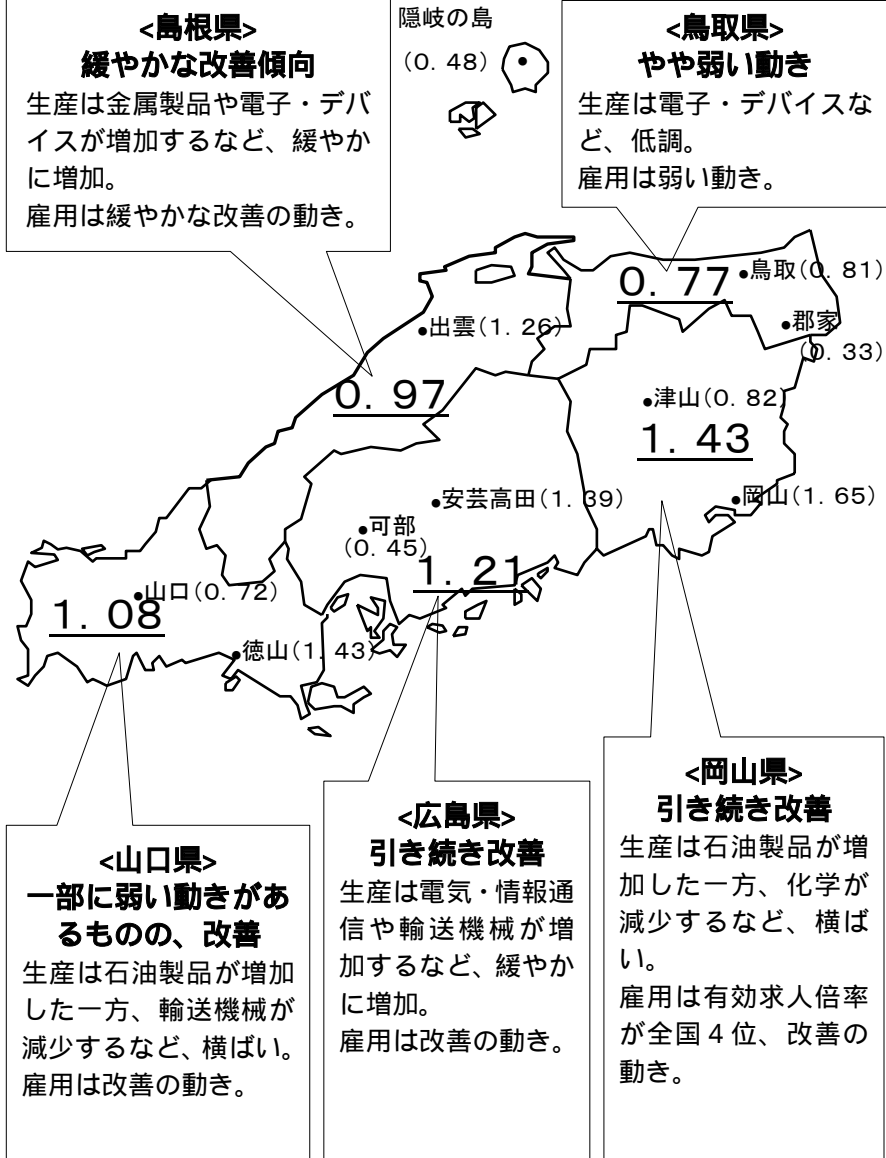
薄型テレビ等のデジタルAV機器等が引き続き好調に推移するものの、自動車、衣料品等の販売が低調で、概ね横ばいで推移。

3. 地域経済のトピックス

原油・原材料の価格上昇により業種や企業によりバラツキがあるものの、多くの企業において価格転嫁が困難なことから収益への影響あり。

観光は、天候不順等の影響がみられたものの、外国人観光客が増加し、総じて堅調に推移。

中国経済産業局管内の経済動向



中国地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

生産は横ばい傾向。設備投資は堅調な動き。雇用情勢は改善傾向。個人消費は緩やかな増加傾向。全体としては緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 横ばい傾向 ~

生産は、鉄鋼や船舶・自動車などが好調であるものの、電子・デバイスや化学などに弱い動きがあることから、横ばい傾向。

(2)設備投資 ~ 堅調な動き ~

製造業では、一般機械や輸送機械等、非製造業でも、小売業等で堅調な動き。

(3)雇用情勢 ~ 改善傾向 ~

有効求人倍率は、山陽3県で1倍を超えて全国平均を上回るなど、引き続き改善。また、山陰2県も緩やかな改善傾向にある。総じて改善傾向。

(4)個人消費 ~ 緩やかな増加傾向 ~

大型小売店の飲食料品や高額商品など、緩やかな増加傾向。

3. 地域経済のトピックス

原油・原材料価格の上昇については、中小企業を中心に価格転嫁が進まず、原油では6割超の企業で収益を圧迫しており、石州瓦や運輸などの業種で大きく圧迫している。原材料では7割超の企業で収益を圧迫しており、セメントや自動車部品などの業種で大きく圧迫している。

7月2日に石見銀山遺跡(島根県大田市)が世界遺産登録を受けたことにより、地元大森町(人口450人)の7~8月の2ヶ月間の観光客数は、前年の約9.1万人から約16.4万人となった。

四国経済産業局管内の経済動向

四国地域の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

設備投資は増加傾向となっているものの、生産、雇用は横ばい傾向、個人消費も概ね横ばいとなっており、全体としては一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 横ばい傾向にある。~

輸送機械、電気機械が、国内外の旺盛な需要を反映し、高水準で推移。一般機械、非鉄金属、化学も好調に推移。一方、窯業・土石、繊維は需要の減少などから弱い動き。

(2)設備投資 ~ 製造業を中心に増加傾向が続いている。~

パルプ・紙・紙加工品や窯業・土石などで高付加価値製品の増産に向けた大型投資が継続。

(3)雇用情勢 ~ 横ばい傾向にある。~

一部地域では、依然厳しい状況が続いているものの、需要が好調な業種が集積している地域では、採用に積極的な動き。

(4)個人消費 ~ 概ね横ばいとなっている。~

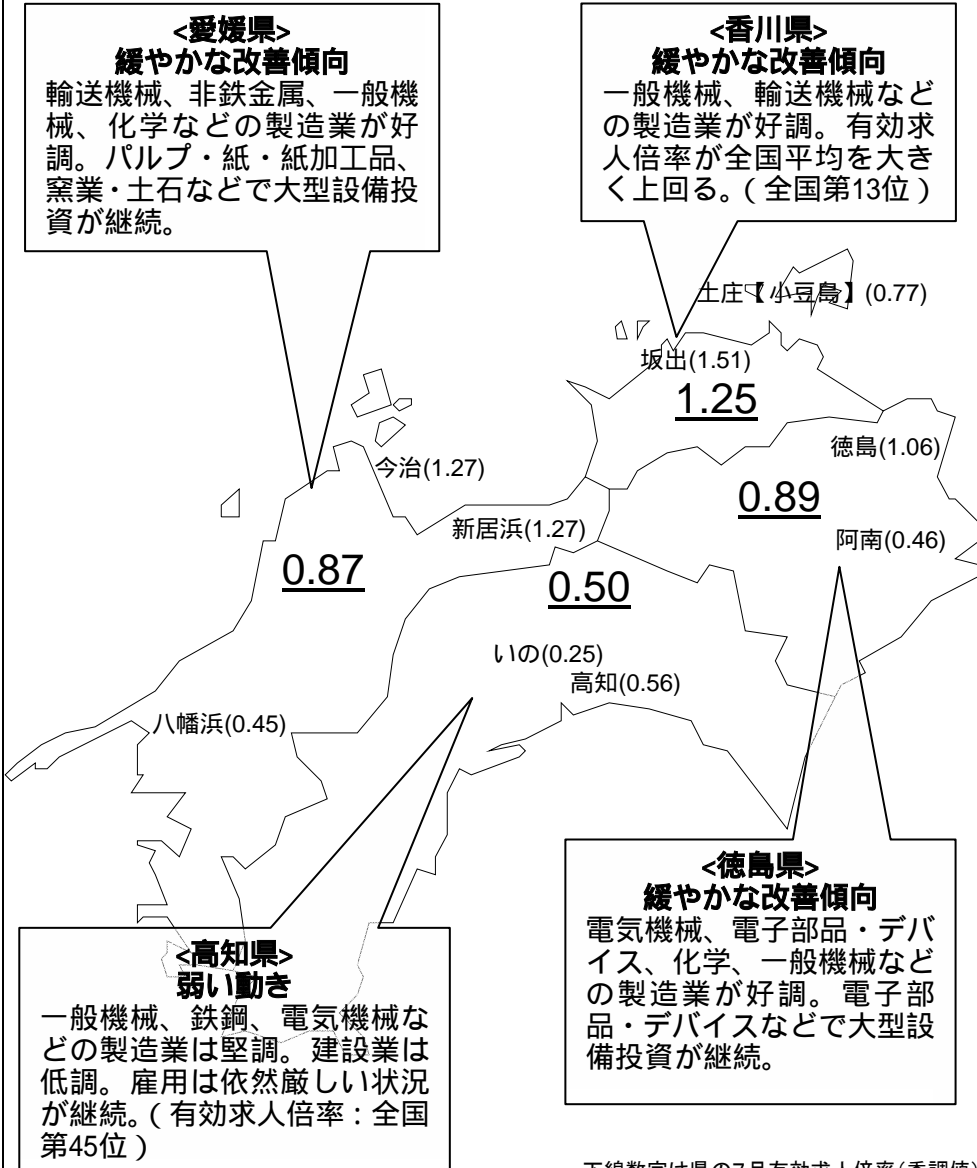
コンビニ、旅行は堅調。大型小売店販売、自動車販売は低調。

3. 地域経済のトピックス

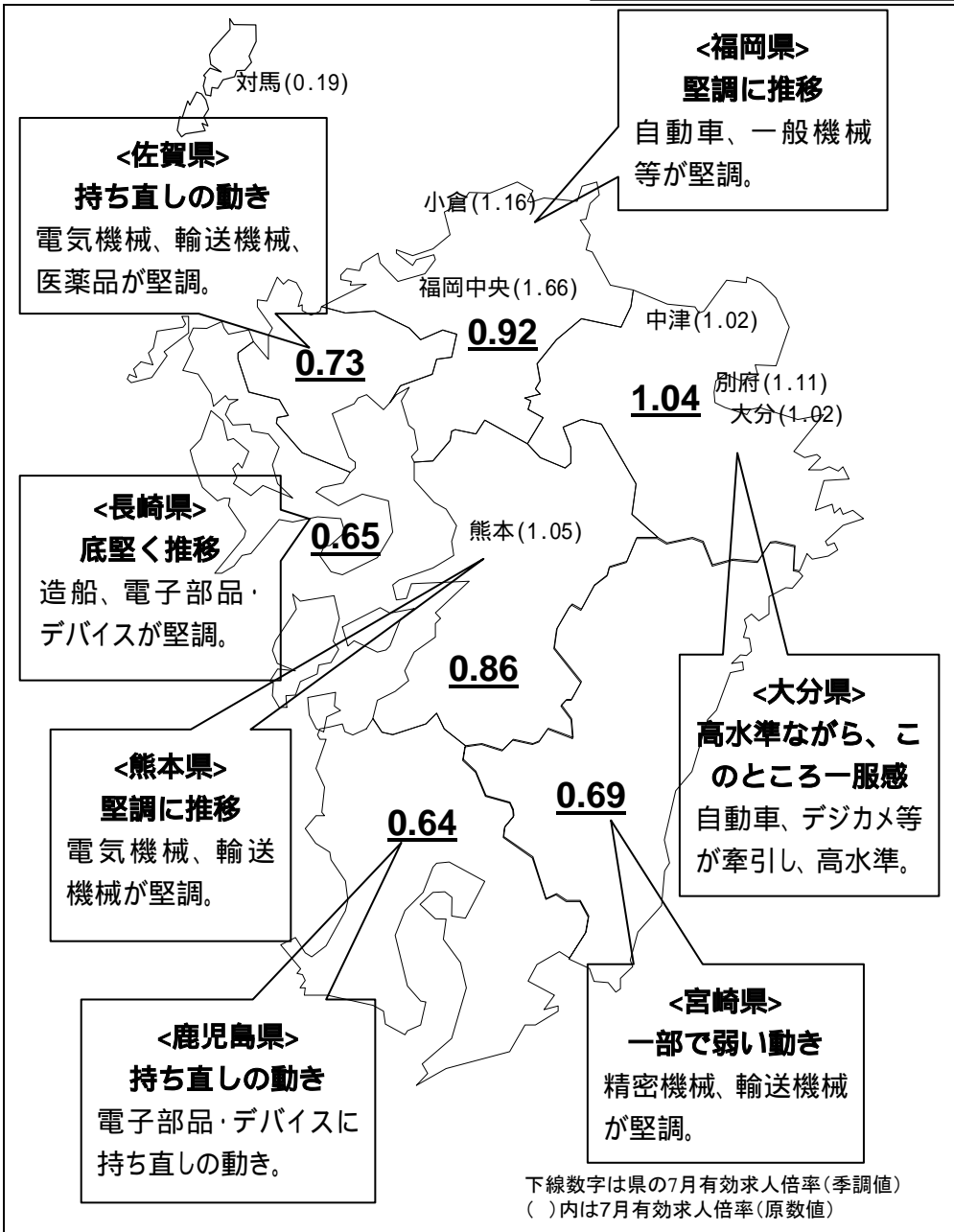
一部企業で、原油・石油製品、原材料価格の上昇が収益を圧迫しており、価格転嫁も不十分。

為替相場、株式市場の動向については、収益への直接的な影響はないとする企業が多い。

映画「眉山」の公開で、徳島市内のロケ地を中心とした地域への入込客が増加。クライマックスシーンの舞台となった阿波おどりには、昨年を13万人上回る139万人の入出。



九州経済産業局管内の経済動向



九州地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

好調な輸出と高水準にある設備投資を背景に、生産は堅調に推移し、雇用も緩やかに改善している。一方、個人消費は、概ね横ばいで推移しており、全体としては緩やかに改善。

2. 個別の動向

(1)生産 ~ 堅調に推移している ~

情報通信機械や輸送機械を中心に、生産は堅調に推移。今後も、自動車関連が牽引し高水準を維持する見込み。

(2)設備投資 ~ 製造業を中心に高水準にある ~

自動車関連などの製造業で新規立地や能力増強の動きが引き続き活発。また、企業立地が進む地域においてビジネスホテル新設が計画されるなど一部の非製造業にも投資が波及しており、設備投資は高水準を維持。

(3)雇用情勢 ~ 引き続き改善傾向 ~

大分県、福岡県の有効求人倍率は高い水準を維持。また、依然として厳しさが残る長崎県、鹿児島県でも緩やかながら改善の動きがみられるなど、引き続き改善傾向。

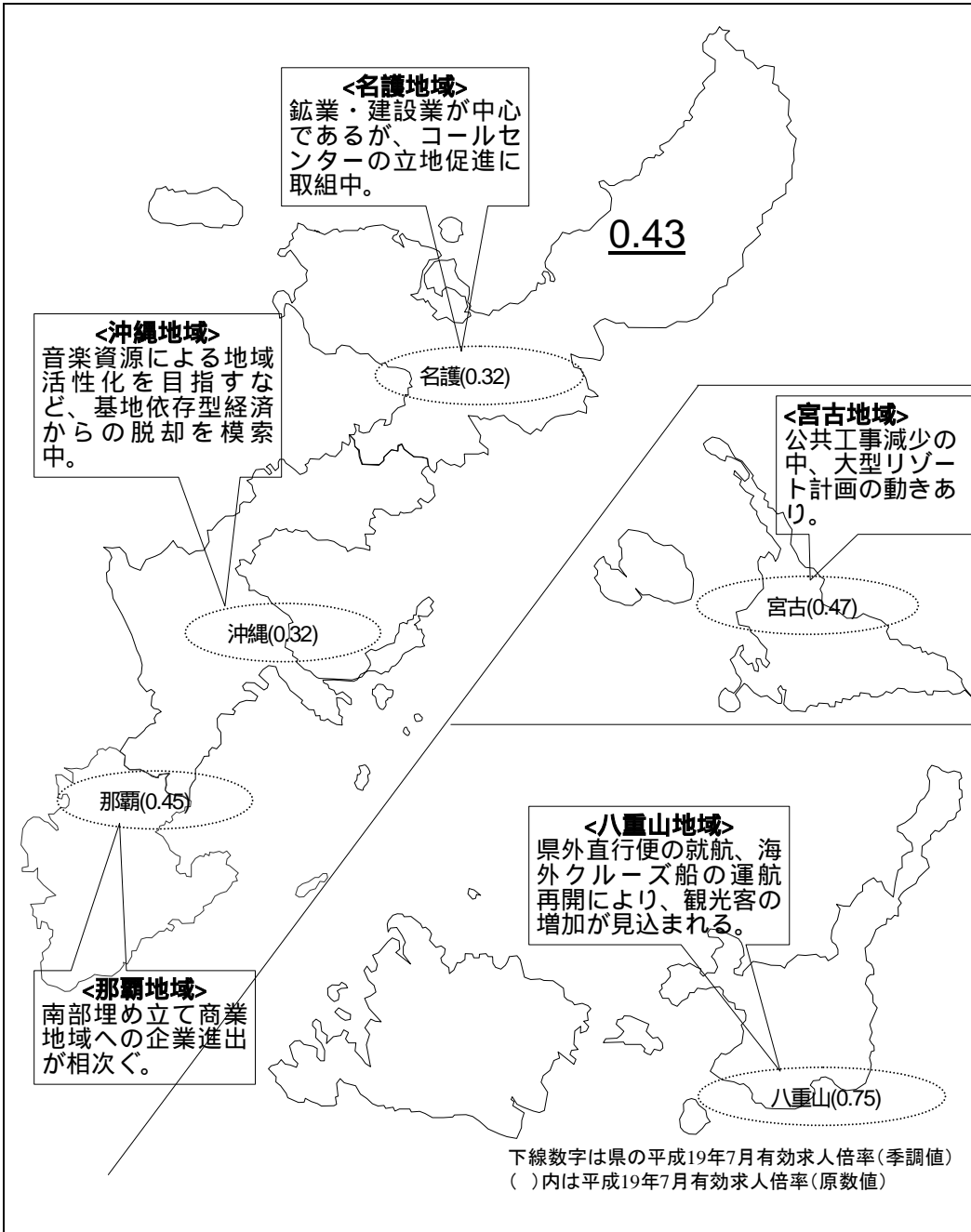
(4)個人消費 ~ 概ね横ばいで推移 ~

国内旅行など持ち直しの動きがみられるものの、乗用車販売は低調、大型小売店販売は一進一退で推移するなど、概ね横ばいで推移。

3. トピックス

- ・原油等価格上昇の影響については、中小企業製造業を中心に収益面の悪化などを懸念する声が多い。多くの企業で価格転嫁が不十分と指摘。
- ・なお、最近の為替・株式市場の変動による影響を懸念する声も多い。

沖縄経済産業部管内の経済動向



沖縄地域の経済は、緩やかに改善している。

1. 全体の動向

8月まで10ヶ月連続で前年同月を上回る観光客が来沖するなど、観光需要は好調。生産・雇用情勢は横ばい。個人消費は堅調に推移。先行きは、観光需要が好調に推移すると見込まれるものの、民間工事を始めとする建設関連は、改正建築基準法に基づく建築確認の遅れ等の影響が懸念される。

2. 個別の動向

(1)生産 ~全体として概ね横ばい。~

窯業・土石、鉱業は横ばい。食料品、金属製品は持ち直し。一方、石油製品は低水準で推移し、全体として概ね横ばい。

(2)設備投資 ~製造業は横ばい。非製造業に動き。~

製造業は、ボイラーなど既存設備の更新が中心。非製造業は、小売りで新店舗開設に向けた投資がみられるほか、卸売で給油所新設に対する投資等の動き。

(3)雇用情勢 ~概ね横ばい。~

有効求人倍率は、0.4倍前半で低調に推移。完全失業率は若干持ち直しの動きがみられたものの、再び7%台後半へ推移していることから、雇用情勢は概ね横ばい。

(4)個人消費 ~全体として堅調に推移。~

大型小売店販売・家電販売は持ち直しの動き。コンビニエンスストアは堅調に推移。新車自動車販売は弱含み。

3. 地域経済のトピックス

4月から8月までの入域観光客数は、対前年度比4.3%増、240万人と同期間で過去最高。8月は月間として過去最高。雇用情勢は、人材不足感はないとする企業が多い中、情報通信産業では、技術者不足が課題となっている企業もある。原油価格上昇は、主に製造業で収益への圧迫があるとする企業が多いものの、製品価格への転嫁はやや困難な状況。